

あ!おんなじだね～

— 14ひきのぴくにっく —

ねずみの家族がおにぎりを持って春探しに出かけた先には園庭や農村公園、お家のまわりで見られる草花や虫がたくさん出てきます。小さいクラスのお友たちは絵本からてんとう虫やアリを見つけたり、タンポポのページでは綿毛にふ～っと息を吹きかけたりして実体験と重ねながら楽しみ、大きいクラスのお友だちは文章に無いねずみのきょうだいのやり取りを絵から読み取ったりして楽しみかたも色々です。



ある日、廊下の天井から降りて来たクモ。子どもたちの反応は「あ、ハロウィンでしょ？」（…違います）。その後には広場の入口に大きなヒキガエルが登場。…しかし大きいのになぜか気づいてもらえず、やむなく声を掛けると「え?いたの?」「うわー、でっかい!」と眼光鋭めのヒキガエルですが小さいクラスの子も怖がることなく並んでみたり、ちょんちょん触ってみたりしていました。川をジャンプするトノサマガエル、散歩するトカゲ、大きなタンポポ、土筆の林、子どもたちが作ったてんとう虫も仲間入りして自分たちがねずみの大きさになった世界を楽しんだり、園庭の木に穴があると「これねずみのお家かな?」とねずみの暮らしも想像しているようです。

◎ 今年度はハードカバーの絵本の為、カバーと帯が付いています。園で見る時はカバーを外して見ているので絵本を持ち帰るまで家庭での保管をお願いします。次の絵本のカバーと一緒に持ち帰ります。



おれのことギロってみてー!

てんとう虫いたー!



わたげ。ふ～っ! てしたね



土筆の林

